

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

東日本大震災から6年半が過ぎました。各地で展開されている支援活動も、被災者の方々に寄り添うかたちも、徐々に変化してきました。石巻市雄勝の仮設住宅を訪問していた西仙台教会、カリタス石巻ベースでの仮設集会所でのお茶会も、被災者の方々が復興公営住宅に移転されることにより、皆さんから感謝されつつ終了いたしました。これからの新たな歩み、出会いが期待されます。また、東日本大震災で沿岸部に大きな被害のあった宮城県亶理町にあるカトリック亶理教会は、長年の夢であった改築工事が行われ、常時、80人が収容できる規模になりました。被災者の方を含め、多くの方が参列された祝別式の様子をご紹介します。

雄勝訪問、そして大川小学校

カトリック西仙台教会 上野 隆

2017年7月17日（月）、カトリック西仙台教会では、宮城県石巻市雄勝町の森林仮設を訪問し、その後、大川小学校跡地を見学、祈りを捧げるというバスツアーを実施いたしました。

西仙台教会では、2013年9月からほぼ毎月1回、数人がこの森林仮設を訪問しており、長く続いている支援活動のひとつとなっています。現在、この仮設には、数十世帯が住んでいますが、今年の末頃に災害公営住宅が完成することから、それに伴って仮設も閉鎖される予定になっています。そこで、閉鎖される前に、教会をあげて仮設を訪問しようと、今回雄勝に押しかけました。

こちらの仮設に住まわれている方々とは、ドミニコ会のSr.安藤芳のご尽力により、ほとんど何も用意せず、気楽に体だけで訪問し、茶飲み話をして帰ってくる、そんなお互いに無理のない関係が築かれています。牡蠣のシーズンには、仮設から帰る時に袋いっぱいの大きな生牡蠣をお土産にいただくこともありました。

震災前、雄勝町は、硯で有名な雄勝石で作られた深みのある黒色のスレート葺によって町全体の屋根が葺かれており、落ち着いた家並と美しい海が調和した町だったそうです。震災により、その風景も失われ、住民も人口の7割が流出し、残る者はほとんど高齢者という現状ですが、それにもめげずに、この地で生きようとされている方々の姿には、心打たれるものがあります。

皆さんと交流するうちに、仮設にお住まいの方の親類にドミニコ学院の卒業生がいることがあらためて分かり、私たちに同行したドミニコ学院のSr.遠藤洋子とSr.庄子早苗はとても感激しておりました。ま



た、その際に、卒業アルバムなどが流されたという話を聞いたことから、Sr.遠藤洋子は仙台に帰ってきてから、あらためて写真などをお送りしたそうです。

名残惜しい気持ちを残しつつ仮設住宅を出発して、かさ上げされた海岸沿いに建設中の災害公営住宅を車窓から見学後、もと来た道を引き返して、大川小学校跡地に向かいました。今まで雄勝を訪問する時、いつも横目に見ていたのですが、この跡地を訪問して、まじまじと見るのは初めてでした。

この大川小学校周辺は、北上川の河口から4キロの地点ですが、山と堤防に遮られて直接海をみることはできないので、のんびりした田園地帯に見えます。そして、震災以前にこの釜谷地区に津波が到達したという記録はなく、住民は「大川小学校がいざという時の避難場所」と認識していたようです。そのことが、5分で完了する裏山への避難を遅らせたといえます。裏山の少し上の所に目を向けると、津波到達点という立て札が目にはいりました。その場所は、小学校の屋根をわずかに超える高さでした。



大川小学校の被災校舎は、震災当時のまま、そっくり残されています。円形の教室がいくつも組み合わされ、なかなか斬新な造りの校舎だったようですが、津波によってコンクリートの外壁は破壊され、鉄筋が不気味にうねっており、その津波の爪痕の酷さに胸を痛めました。また、被災校舎南側には、釜谷地区と遺族会が設置した慰霊碑があり、参加者全員で祈りをささげました。

石巻市は大川小学校を、震災遺構として保存することを決めているので、一度はこの地を訪問されることを、お勧めいたします。



慰霊碑前で祈りをささげる参加者



大川小学校と「数字」

ひびき工業団地仮設&押切沼仮設お別れ会

カリタス石巻ベース 内原 わさ

カリタス石巻ベースが関わってきた2か所の仮設住宅での活動が、集会所閉鎖と仮設住宅閉鎖に伴い、8月をもって終了しました。そこで、8月22日に「みんなまた会いましょう会」と題したお別れ会、翌23日に思い出作りと心身のリフレッシュを目的としたお別れ会遠足をそれぞれの仮設で行いました。

一つの仮設は、東松島市にあるひびき工業団地仮設です。この仮設は、2011年5月中頃から入居が開始され、野蒜地区や大曲浜地区などを中心に甚大な被害を受けた住民の方々が住んでいました。(野蒜地区では10m35cm、大曲浜地区では5mの津波が押し寄せ、町の大半を失いました。)石巻ベースは、2011年7月16日を初回に移動カフ

エ（当初、お茶会をこのように呼んでいました。）として関わりを持ち始めました。初めのころの記録を見ますと、毎回子どもたちの参加があり、利用者数も多いときには50人以上だったとの記録が残っています。

当初244戸も入居していたこの仮設も、丸6年以上たった現在では、25戸となっていました。ある利用者は「当初は有名な人や多くの団体が来てくれたが、だんだん来なくなった。カリタスさんは最後まで関わり続けてくれた」と話していました。

8月いっぱい集会所が閉鎖されることが決まった時、自治会長さんは「最後のお別れ会をカリタスさんでやってもらえないだろうか?」と社協の方に相談したそうです。社協の方たちも大賛成で、お別れ会をカリタスが引き受けることになりました。当日は既にひびき仮設を退去した元住民や、県内外から多くのボランティアも集まってくださり、総勢40名の人たちで仮設住宅集会所最後の集まりをしました。



プログラムの最初に、皆さんの楽しみのひとつだったお抹茶とタッピングタッチを入れました。お抹茶とタッピングタッチで心と体がリラックスしたところで、第二部に入り、参加の方々に、詩吟、コーラスグループの合唱、民謡を披露していただきました。その後、全員で歌い、美しい歌声が集会所いっばいに響きわたりました。第三部は交流の時間、お茶をいただきながら交流の時を持ちました。交流の中で、笑顔・笑顔・笑顔の温かな光景がありました。それは当初から関わり続けてきた多くのボランティアとスタッフが、この最後の日まで、一生懸命温かく関わり続けてきたカリタスの実りを見ているのだと思いました。第四部に入り、社協の方のリードで東松島音頭を一つの輪になって踊りました。立って踊れない方は椅子に座ったまま踊っていました。感動しました。



最後に、ボランティアとスタッフ全員で「信仰、希望、愛、信仰、希望、愛、新しい時の初めに」を祈りとして歌い、終わりとしました。皆が別れを惜しみ、握手を交わし、一人一人を送り出しました。

自治会長さんからも社協の方からも「最後まで関わり続けてくれたこと、これからも何かの形でつながっていてほしい」との言葉をいただきました。これから新しい地に移って行った人たち、特に一人暮らしの人たちとどのように関わっていくか課題が残ります。



もう一か所の押切沼仮設は、石巻市河南地区にある野球場に建てられた仮設で、2011年10月に入居が始まり、当初は120世帯が生活していました。石巻ベースは、2012年3月19日から移動カフェとしてこちらでの活動を開始しています。

この仮設も、当初はいろいろな団体が入っており、イベントの多い仮設との記録があります。石巻ベースは、月2回のお茶会を5年5ヵ月続けてきました。最近では、入居者も減り寂しくなっていました。毎回の茶会に、すでに仮設を出た方たちも参加して交流され、情報交換の場ともなっていました。この仮設は、9月には閉鎖されるため、現在入居している人たちは他の仮設に移らなければなりません。離ればなれになる前にお別れ会をしようと計画し、雄勝半島を回る遠足を行うことにしました。仮設から男性2名、女性4名が参加され、その



（左上）足湯に入ってほっと一息 （右上）海辺でのひととき
（左下）雄勝仮設商店街で昼食 （右下）笑い、おしゃべり、散策の合間に

他ボランティア2名、スタッフ3名の計11名で出かけました。

当日は曇り空で海の色は濁っていましたが、波は穏やかでした。参加者の1人の生まれ育った浜に立ち寄り、皆が車から降りて海の水に触ったり、貝殻を拾ったりしました。この浜の周りに家はなく、仕事場の小屋がぽつんと建っているだけでした。誰からも津波の話は出ず、ただここに家がかったという話だけを聞きました。以前はここで人々が暮らしていた、しかし今は、人気はなく穏やかな海だけがそこにありました。石巻ベースのオープンスペースに来られる方から聞いていた被災場所も通り、その方のことを思い、涙があふれました。

正午過ぎに雄勝商店街に着き、美味しい海鮮どんぶりをいただき、その後、女川駅前で足湯につかったり、買い物をしたりと、楽しい時間を過ごしました。バスの中では楽しい会話が弾み、再会を固く固く約束して、押切沼仮設のお別れ会遠足が終わりました。



釣石神社 （石巻市北上町）
ご神体の巨石は、「落ちそうで落ちない受験の神様」として有名

「神の家・・生ける神の教会」カトリック亶理教会改築祝別式
カトリック亶理教会 清野 ふみ
マリアの宣教者フランシスコ修道会 亶理修道院 Sr.内田 雅

9月3日(日)カトリック亶理教会の長年の夢であった改築が完成し、祝別ミサがささげられました。

白い壁に障子窓からの日差し、以前よりずっと明るい聖堂の中で、総勢68名の声が一つになって、入祭の歌が始まりました。改築に力を注いでくださった渡辺彰宏神父様が教会全体を祝別され、祭壇に献香、祭壇布、ろうそく台、花が次々と置かれ、建築家の伊藤雅敏さんを先頭に奉納行列が続きました。聖体拝領後、聖櫃にご聖体が納められ、聖体ランプが灯された時、静かな感動が聖堂全体を包んでいました。

「震災以前から亶理教会の改築案が出ては、立ち消えになっていたことが、今回、実現した。教会は、主キリストの名によって集められ、キリストを中心に秘跡であるミサが行われ、その続きに食事を通しての交わりがある。亶理教会はその役割を果たしている。(亶理教会のミサが11時なので、ミサ後、いつも昼食を共にします。それは婦人会の力です。)これからもこの役割を果たすに十分な空間をいただいた。イエスについて行くことは、十字架の道、それが復活へとつながる道であることを常に意識して歩んで行こう」という神父様の話を聞きながら、これまでのことを振り返っていました。



改修工事後の亶理教会外観と聖堂

ミサ以外で聖堂を使用する際は、祭壇前にパーティションを下げて利用する

改築前の亶理教会は、20名が入ればいっぱいとなる小さな聖堂で、主日ミサの出席者は、常時15名位ですが、降誕祭や復活祭には80名ほどの方が集うため、いつも亶理カトリック保育園のホールを借りなければならませんでした。

また、亶理教会は、東日本大震災後から、フィリピンの方々が介護ヘルパー2級の資格を取得するための勉強会のサポートや、亶理町の仮設住宅集会所でお茶会を行っている八木山オリーブの会の手伝いをしてきました。2016年には、仮設住宅閉鎖とともに集会所も使用できなくなることから、八木山オリーブの会の活動場所として教会を使っていたようにしましたが、参加者とボランティアが40名集うには限界がありました。

亶理教会の長年の夢とは、多国籍の方々、被災者の方々、亶理カトリック保育園や地域の子供たち、地域の方々が、キリストのもとに集う場が欲しい、ということでした。その信徒の方々の熱い思いに加えて、八木山オリーブの会の活動が、八木山教会主導から、亶理教会へと活動をシフトしていくという変化も、今回の改築への大きな後押しとなりました。

改築のための引っ越しは、仙台ダルクの仲間たちが手伝ってくれました。引っ越し先は、マリアの宣教者フランシスコ会亶理修道院が間借りする大家さんのご好意で、修道院へ。改築中の主日のミサや、八木山オリーブの会の活動も、修道院で行われました。

祝別式前日に荷物を戻すという大仕事も、心配された台風の影響もなく、無事に終わりました。

全ての事が、計らわれている、主がこれを成してくださったという確信は、その主がこれからの亶理教会の歩みをも支えてくださるという希望につながっています。

聖堂と集会室を一つの空間に改築して、広くなった聖堂で、フィリピン共同体、東日本大震災復興支援活動を通してより強いつながりができた八木山オリーブの会、菊名教会(横浜教区)、CTVC、被災者の方々など、多彩なメンバーと共にささげる賛美と感謝の祝別式は、これからの亶理教会の姿の片鱗を主が見せてくださっているようでした。

新しくされた聖堂、教会がすべての人に開かれた教会、共に歩む教会、生ける神の教会(1テモテ3・15)、神の愛が現実となって現わされた教会となっていくことができますように、皆で心を一にして祈りました。

これまで亶理教会をサポートしてくださった諸教会の信徒の皆さま、願いを受け入れてくださった司教様、神父様方、関わってくださったすべての皆さまに心から感謝申し上げます。



《東日本大震災被災地案内 in 宮城》

この度、カリタス石巻ベース、米川ベーススタッフの案内による被災地巡りを行うことになりましたので、ご案内します。詳細は、仙台教区サポートセンター活動日記 <http://caritasjapan.jugem.jp/> をご覧ください。

◆実施予定：第1回：2017年10月24日(火)～10月26日(木)
第2回：2017年11月14日(火)～11月16日(木)

◆簡単なスケジュール案内

- 1日目 仙台集合、石巻方面ご案内 石巻ベース宿泊
- 2日目 南三陸町で漁業または農業支援のボランティア活動に参加
南三陸町震災遺構等ご案内～温泉で入浴、米川ベース宿泊
- 3日目 米川教会でお祈り、キリシタン殉教地三経塚へ
登米市役所(仙台行き高速バス停留所)まで送迎

*出発から最終日の高速バス停留所まで、ベーススタッフが運転するベース車両での移動となります。

◆対象：全国のカトリック信徒の方

◆定員：各回6名(最少催行人員4名)

◆申し込み受付期間 第1回：9月24日(日)～10月10日(火)
第2回：10月14日(土)～10月31日(火)

*定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。

*最少催行人員に満たない場合は、締切日翌日にサポートセンターからご連絡します。

◆申し込み・問い合わせは、仙台教区サポートセンターへ
電話：022-797-6643 FAX：022-797-6648

Email: sendaidsc@gmail.com

*祝日は休業となります。

*お電話での問い合わせは、9時～17時の間にお願いします。